

# 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

長浜市立 永原小学校  
教諭 今井 伸哉

## 1. 単元名 『山門水源の森』とわたしたちの暮らし

### 2. 単元の目標

- 地域の里山は、昔から人々の暮らしと大きく関わっており「共存」の関係であったことが理解できる。また、豊かな自然を守るために取り組まれていることや自分にできることを、パンフレットなどを用いて発信することができる。 (知識及び技能)
- 既習の学びや山門水源の森でのフィールドワークを通して、里山と人々の生活との関わりについて気づいたり、里山を守るための活動について考えたり、他教科の学習と関連させながら自然を守ることへの自分の考えを発表したりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 受け継がれてきた地域の自然について、これからも大切にしたいと考えをもち、未来へと引き継いでいくために何ができるか目的意識をもって学習を進めることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元では、3年時から積み上げてきた総合的な学習の時間の総括として、学習を展開しまとめる活動を仕組んでいく。3年では「山門水源の森の動植物(総合)」「動植物(理科)」「昔の暮らし(社会科)」について学ぶ。昔の暮らしでは、里山で炭焼きが行われており、冬の大きな収入源であったことを知る。4年では「やまのこ学習(総合)」「水生生物(総合)」を学び、森林の保全について体験する。また、里山では昔から「炭焼き」が行われており、生活に必要なこととして、木々の間伐が行われてきており、里山と人々が共存の関係であったことを学ぶ。5年では「田んぼの子(社会科)」「フローティングスクール(総合)」「流れる水のはたらき(理科)」の学習において、「水」をテーマに学習を深める。そして、6年では「歴史」的な視点も入れ、地域の環境がどのように受け継がれ、守られているのかを考えていく。地域で守られている「山門水源の森」を教材に、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」や森林マッチングセンターから講師を招き、保全活動やボランティア活動について学ぶ。また、ゴルフ場が作られる計画があったことを取り上げ、開発と環境保全についても考え、地域の未来についての考える契機としたい。

#### (2) 児童観

本学級の児童は、地域学習として、歴史的景観地区に指定された「菅浦」や「山門水源の森」のよさを観光客に伝えるための「リーフレットづくり」に取り組んできた。活動の中で、資料から情報を読み取ったり、インタビューをしたりと情報収集の方法を身につけてきた。また、リーフレットにまとめる中で、読み手を意識した構成や写真選択の力、またグループで話し合いながらよりよいものに仕上げていく経験を重ねることができた。このような学びを生かし、単元の終末では、地域に学びを発信する活動を仕組みたい。また、自分たちが故郷の自然を守るために何ができるのか、行動の変容を促す学習展開を仕組みたい。

#### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず今までの学年の学習を想起させる。このことを通して、「山門水源の森」について学んできたことを、「動植物」「炭焼き(生活)」「保全活動」などと整理する。その後、社会科や菅浦学習と関連させるなど「歴史的な視点」を与え、地域の人々は自然とどのように関わって生活してきたのかを調べる課題を設定する。そして、家族へのインタビューや資

料収集、実際に「山門水源の森」を見学しフィールドワークや守る会の人々から話を聞く活動を展開する。その中で、昔から地域の人々は山と関わり合って生活を営んできたことを学び、これから地域の自然とどのように関わっていききたいかを考える契機としたい。

次に、フィールドワークで出会った「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の方々がどんな思いで、どんな活動をしているのかを学ぶ。学びを進める中で、身近な自然を守るための活動が思っていた以上に多いこと、人が入らなくなったことで森が弱っていくことを知る。「間伐」など、教師が意図的に今までの学年での学びを引き出せるように導き、個々の学びを有機的に結びつけていくことで、「環境」や「自然循環」についての理解を深める契機としたい。

最後に1990年に西浅井町山門水源の森付近に「滋賀県最大のゴルフ場(当時)」として「開発」の計画があったことを子供に伝える。当時は、山門水源の森の調査が始まったばかりで、その貴重さが認識されてはいなかった。そんな折、東京や福井の会社が開発に乗り出し、滋賀県や地元西浅井に開発の申し出がきたのである。当時の人々の思いを聞くこともよい学びとなるだろうが、まずは「開発計画」についてどう考えるか子供に問いたい。「地域の発展」か「環境の保全」か、故郷西浅井町にとってどちらがよい道なのか、本当の豊かさとは何なのかを、両者を比べて考える中で「環境を守ること」の難しさと環境保全の大切さを実感できる時間を作りたい。さらに、学習の終末では、近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の考え方を取り上げ、「世間よし」とはどのようなことを指すのかを考えることで、環境に目を向けさせたい。

これらの学びを通し、過去の人々の努力や営みがあるからこそ、今の自分たちの生活があることを理解し、今後自分に何ができるかを考え、学びを発信していく活動を展開していきたい。

#### (4) ESD との関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…自然の中には多くの生き物が関わり合いながら生活を送っており、それらがうまく循環するからこそ、豊かな環境が維持されていること。

有限性…森林の木々や美しい水などは当たり前にあるものではなく、人々の手によって簡単に変わってしまうものであるということ。開発によって簡単に壊されるものであること。

責任性…自分も自然の一部であることを自覚し、自信の行動が環境に与える影響があることを理解すること。このくらいいいではなく、小さな一歩が環境を変える一歩となること。

##### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

###### ○システムシンキング

理科、社会科など、今までの学習を「環境」をテーマに整理し一貫性のある理解を行うこと。

###### ○クリティカルシンキング

「開発」をテーマに、生活の豊かさと環境の保全という相反する内容について考え、未来について考える力を伸ばすこと。

###### ○協働的問題解決力

グループや学級での話し合いを通して、自分たちにできることを考えたり、学びを地域や他学年に発信したりし、環境保全についての意見をまとめる。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

###### ○自然環境・生態系の保全を重視する

自分たちの生活が環境に与える影響を理解するとともに、自分たちも環境の中で生活しており、自然を守ることは自分たちの生を守ることに繋がっていることを理解する。また、多様な生物がそれぞれの役割を果たすことで、自然が循環していることを理解し、自然を守る大切さや保全活動に参加する態度を醸成する。

###### ○幸福感に敏感になる。幸福感を大切にする。

「山門水源の森」でのフィールドワークにおいて、自然の中で活動した時の気持ちを大切に

し、自然と関わり合いながら生活することが本来の姿であることを体験を通して理解する。

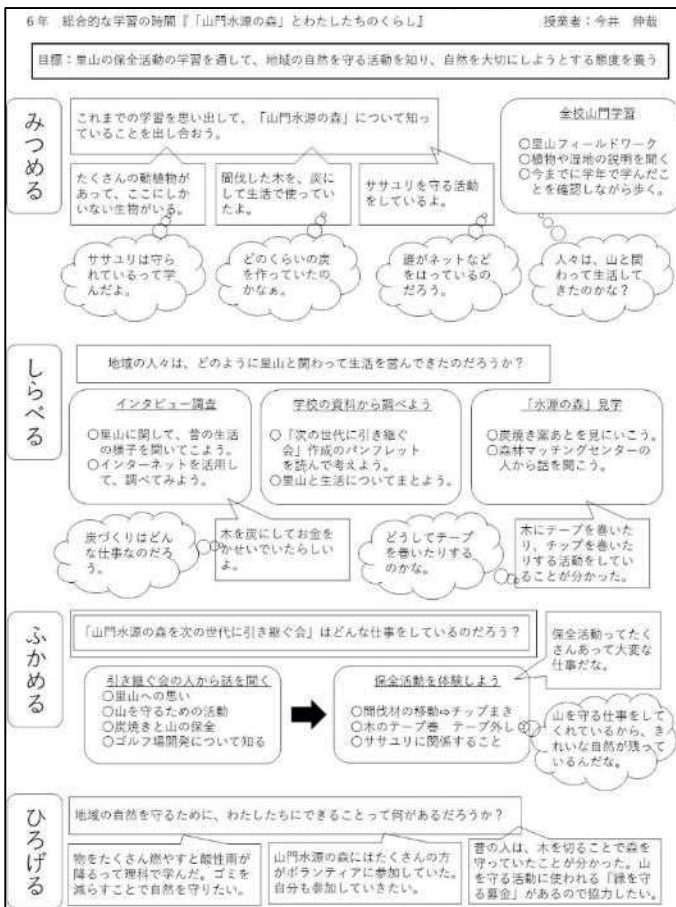
・達成が期待される SDG s

- 1 1 まちづくり
- 1 5 陸の豊かさ

4 単元の評価規準

(ア) 知識および技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の里山は、昔から人々の暮らしと大きく関わっており「共存」の関係であったことを理解している。</p> <p>②豊かな自然を守るために取り組まれていることや自分のできることを、パンフレットなどを用いて発信している。</p>	<p>①既習の学びや山門水源の森でのフィールドワークを通して、里山と人々の生活との関わりについて考えている。</p> <p>②里山を守るための活動や他教科の学習を関連させながら、自然を守ることに自分の考えを公表している。</p> <p>③「開発」についての話を聞き、自然を守るために必要なことは何かを考えている。</p>	<p>①地域の自然についてもっと知りたいの思いをもち、フィールドワークやインタビュー活動に取り組んでいる。</p> <p>②保全についての自身の考えをもち、進んで活動に参加しようとしている。</p> <p>③学びをまとめたり、自分のできることは何かを考えたりしたことを、地域の人に進んで発信しようとしている。</p>

5 資料（単元構想図と開発に関する新聞記事）



6 単元の指導計画(全50時間)

次	学習活動	○学習への支援	○評価
	○「山門水源の森」のフィールドワ	○全校山門学習において、山門水源の森を散策	(ウ)①主体的

1	<p>ークを行う。</p> <p>○今までの学習を思い出し、「山門水源の森」について知っていることを出し合う。</p>	<p>する。自然の美しさなどを体感する。</p> <p>○山門水源の森を歩いての気づきをメモできるようにワークシートを用意する。</p>	
2	<p>○地域に残る伝統や昔の生活について学ぶ。</p> <p>○里山と生活をテーマに「山門水源の森」へ出向き、地域の方から話を聞く。(炭づくり含む)</p>	<p>○「1」で出されて「炭づくり」をテーマに、祖父母の時代の生活についてインタビュー調査や学校の資料から考える。</p> <p>○昔の生活と里山の関わりについて学び、今の生活は里山と関わっているか問う。</p>	<p>(ア)①知識</p> <p>(イ)①思考力</p>
3	<p>○今の里山の現状を「森林マッチングセンター」の方を講師に招き、話を聞く。</p> <p>・炭づくりが結果として山を守る活動につながっていたんだ。</p> <p>○動植物の多様性と環境がどのように関係しあってサイクルを形成しているかを考える。</p> <p>○自分たちの生活を支える森の役割を確認し、山を守るために何が必要なのかを考える。</p>	<p>○人々の生活が変化し、里山との関わりが薄れたことで、山に起こっている変化(鹿の増加による獣害や間伐不足による日照不足、下草が生えず保水機能が下がり、土砂災害の危険が増えるなど)を知る。</p> <p>○5年「プランクトン学習」や4年「水生生物」の学習を引き合いに出し、微生物の役割について考えるように促す。</p> <p>○山の保全と水災害の関係の学習をふり返る。</p>	<p>(ウ)①主体的</p> <p>(ア)①知識</p> <p>(イ)③判断力</p>
4	<p>○里山を守る仕事は何があるのか。「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」から話を聞く。</p> <p>○山門水源の森へ出向き、保全活動を体験する。</p>	<p>○実際に仕事をされている写真や、なんのための仕事か、そして今どんな課題があるのかを現地の人から話を聞くことで理解を深められるようにする。</p> <p>○体験をとして、里山を守る活動を身近に感じるとともに、仕事の苦労やボランティアについて知れるようにする。</p>	<p>(ウ)②主体的</p> <p>(ウ)①主体的</p> <p>(ア)①知識</p>
5	<p>○ゴルフ場開発を話題に出し、「環境保全」と「生活の向上」について考える。</p> <p>○学習を通しての学びをまとめる。</p>	<p>○当たり前前に存在している地域の自然がなくなる未来(ゴルフ場開発)があったことを知り、地域の未来について考えられるようにする。</p>	<p>(イ)③判断力</p> <p>(イ)②表現力</p>
6	<p>○学びをまとめて「学習発表会」で発表しよう。</p>	<p>○本単元での学びを整理し、保護者や下学年に「環境」をテーマに発表する中で、知識の定着や深まりを目指す。</p> <p>○自分たちの思いを行動に移すために、取り組み(生活の中で始めた)記録を行う。</p>	<p>(ア)②技能</p> <p>(イ)①思考力</p> <p>(イ)②表現力</p> <p>(ウ)③主体的</p>
7	<p>○学びを終えて、自分が未来の環境のためにできることを考え、地域に発信するとともに、行動に移すように学習をまとめる。</p> <p>・ボランティアに参加しよう。</p> <p>・ゴミを減らしたり、水を汚さないようにしたりすることも大切だ。</p> <p>・自然や環境をもっと学びたい。</p>	<p>○学習のふり返りとして、パンフレットやリーフレットに、学習で学んだこと、環境を守るための取組、自分たちが始めている取組をまとめ、支所や駅に掲示し、地域に啓発する活動を設定する。</p> <p>○できることを考え小さな一歩を始め、続けられるように定期的にふり返りを行う。</p>	<p>(ア)②技能</p> <p>(ウ)③主体的</p> <p>(イ)①②③判断・思考・表現</p>